

動物保護施設から

飼えなくなったり、飼い主不明で保護されたペットを新しい飼い主に譲渡する事業を、各自治体の動物保護センターや民間の動物愛護団体等が行っています。スタッフがあなたのライフスタイルや生活環境に合った動物をアドバイスしてくれたり、試しに飼ってみる期間を設けている施設もありますので、実際に動物に接して現実的に判断することができます。

ただし、保護されたペットなので、生年月日や年齢、病歴など細かなデータはない場合がほとんどです。自治体の施設では講習会の受講が義務づけられていることがあります。また、民間動物愛護団体等の中には、詐欺まがいの行為をすることもあるので、信頼できる団体なのかよく見極める必要があります。

CHECK!

動物の再飼養支援データベース・ネットワークシステム

<http://www.jawn.jp/>



やむを得ない事由で自治体に引き取られたり、収容された動物の譲渡を推進する環境省のページです。

友人・知人から

友人や知人の家で生まれたペットをもらってくる場合は、ブリーダーからの購入と同じく、飼い方のアドバイスをを受けたり、親きょうだいをみるなどできるなどの利点があります。

しかし、個人的な経験や思い込みで間違った飼い方をしていたり、繁殖や遺伝性疾患に関する知識がないために、病気を持っている場合などもあるので注意が必要です。



犬やねこの喜び姿や、飼い主を信頼しているしぐさなど、ペットと飼い主の絆は、見ている私たちの心をも楽しく暖かくさせるパワーを持っています。自分もあんな風にペットと楽しく暮らしたい、と思うのは自然な感情です。

飼い始めたその日から、ペットの命はあなたにゆだねられます。毎日の世話、住居環境、経済的状況・・・もし、不安や不確定要素があるのなら、今はペットを飼わないほうがいいでしょう。「こんなに大変とは思わなかった。」「忙しい。」「かわいくなかった。」「やっぱり無理。」・・・人はいくらでも言い訳できますが、ペットは口をきくことも、飼い主を選ぶこともできないのです。飼い主の無責任のツケはペットがその命で払うことにもなります。「好きだから、今は飼わない。」「飼えるようになるまで我慢する。」というのも、ペットへの愛情のひとつの形です。

ペットが天寿を全うするまで、数年～数十年に渡る年月を、ともに過ごす喜びをもって飼いきれることができるか、生きる全てをあなたに依存するペットを幸せにしてやれるか、その努力を続けることができるか・・・もう一度自分に問いかけてみてください。

ペットを飼うほんとうの楽しさは、責任と努力の向こうにあるのです。

